

## 「ご供養の女将」

埼玉県川口市 正覚寺住職 中野尚之<sup>しょうし</sup>

学生時代よく食べに通った近所のそば屋さんに久しぶりに行ってみました。

店に入ると、なつかしい風景と香りにつつまれ、ほっと安心いたしました。

注文はそばではなく、辛み鍋焼きうどん。寒い夜で、しかも以前お品書きになかったものを頼んでみました。

しばらくすると注文のそれが運ばれて「おまちどうさま」という、変わらぬ女将さんの声がやけに懐かしく心地よく感じ、やっぱり来てよかったと思いました。

そして気がついたことがあります。一度おいた鍋焼きを丁寧におきなおして「ごゆっくり」とこれも変わらぬ接客でした。

考えてみると以前から同じように接客なされていたと思い出しました。

このお店は、特別に美味しいというわけではありませんが、誠実な接客が心地よく、飽きのこない味が恋しくて通っていたのかもしれませんが。

道元禅師さまのご著書「典座教訓」<sup>てんぞきょうくん</sup>に、道場でお食事を司る典座和尚様の心得として「典座は修行僧に食事を供養することが勤めである」と示されています。

「供養」は一般的には、ご先祖様や、仏様に対して用いる言葉のように思えますが、修行僧を仏さまとみなしてお食事を供養する、という志であると読み取ることができます。

久しぶりに行ったおそば屋の女将さんは、客人に料理を供養しているように思えるのです。

供養することは相手を満足させるということより、供養する者が人間本来持ち合わせる「誰かの為になりたい」という慈悲心を満たされる実践行であるといえましょう。

仏教徒の幸せな生き方とは、こうした日常の過ごし方であると気付かされます。